

GT サウンド“GT ゴジラ” 試聴会報告 (2015.5.2)

GT サウンドがダブルウーファーの大型スピーカーシステムの愛称“GT ゴジラ”という「SRV-1B7」の試聴会を開催するというので行ってきました。

<SRV-1B7 仕様>

GT サウンドの HP7 に製品の概要が記載されており、ウッドホーンとダブルウーファーで構成されています。

http://www.gt-sound.com/gt_reference.html



<試聴の経過>

開発の経緯や設計思想や素材の選択について詳細な説明があり、CD とアナログのデモがありました。さらに参加者持ち寄りの CD をたっぷり聴く時間があって非常に有益な試聴会でした。

CD はアキュフェーズの DP-720 での送り出し、アナログはヤマハの GT-2000 からイケダのカートリッジによる再生で、駆動アンプはすべてアキュフェーズで、

前半はネットワークで、後半はマルチアンプ駆動での再生でした。なお、ターンテーブルシートとスタビライザーは特性のステンレス製、トランスも GT サウンドオリジナルのものでした。使用機器の詳細は下記のとおりです。

プリメインアンプ：アキュフェーズ E470+AD-30 (フォノボード)

プリアンプ：アキュフェーズ C2820+AD2820 (フォノボード)

チャンネルデバイダー：アキュフェーズ DF-55

パワーアンプ：アキュフェーズ A-70、P-6200

CD プレイヤー：アキュフェーズ DP-720

アナログプレイヤー：ヤマハ GT-2000

アーム：FR FR-64S、Granz MH-124S

カートリッジ：IKEDA 9TP、My Sonic Eminent Soro

最初に CD によるジャズとアナログでチゴイネルワイゼンがかかりましたが、ジャズは音像が大きくなるころはありましたが、楽器の実在感があり、チゴイネルワイゼンはホーンでありながら弦の倍音が十分出ていました。

ここから参加者の CD の女性ボーカル、クラシックギター、オーケストラが順次希望によってかかりましたが、ボーカルもギターもナチュラルでオーケストラの分離も良く、楽器の質感の表現が良かったと思います。

持参した千住真理子のバッハの無伴奏パルティータを小音量でかけてもらった後、テクノポップス、サンサーンスの交響曲 3 番、太鼓などがかかりましたが、オルガンのファンダメンタルも過不足なく、端的に言いますと、一般の大型スピーカーにありがちな小音量でも音が痩せず、当然のことながら大容量でも音が崩れないリニアリティの良さが印象に残りました。

ここでマルチアンプ駆動に切り替え、順次、女声ボーカル、バロックの金管、ジャズなどがかかり、マルチアンプ駆動にした分、クリアーさが増したように感じました。ここでブルックナーの 9 番のアナログをかけてもらいましたが、音の分離も協和も十分でした。さらにオルガン伴奏の合唱、マーカス・ミラー、ジャズピアノなどがかかりましたが、合唱の分離、大音量のマーカス・ミラーも破たんなく再生できており、クラシックからジャズ、テクノポップスまで、小音量から大音量まで幅広く対応できることが示され、昨今のハイエンドとは一味違ったパフォーマンスに参加者の反応も上々のようでした。

以上

